

静岡市警備本部

昭和二十五年五月八日

静岡市警察署長

奥東民事部

司法行政課長

殿

最近の管内状況について  
首標の件につき管内に於ける大衆運動として注目される  
ものは

1. 清水事件に伴う勾留用示公判斗争について  
2. 赤十字一回りデー実施に  
の動向であるがその状況 別添の通りであるをり通報する。

静岡市警察署

静岡市警備第六二五号

昭和二十五年五月八日

静岡市警察長

岡東民の行政課長

敬

勾留理由開示公判に伴う斗争状況ニリテ

四月十九日清水税務署に於ける税金斗争に伴ひ  
清水市署に於て検挙し、共産党員福井初夫  
(県委員)外二十四名に係る勾留理由開示の公判  
が左記の通り開廷され、二日に亘り約百五拾名の  
清水生活を守る会員その他関係者が押掛け  
内外呼應して強力な法廷斗争を展開し、その  
状況左記の通りであつたから通報あり。

静岡市警察署

記

(一) 第一回

公判日時 昭和二十五年四月二十七日 自 午後一時 至 午後八時

第一回 午後一時四十五分より小倉判事係により

被疑者 桃山春吉 大田正幸 酒井謙弥

大江後雄 波田又右門

が左記の通り申延されたが両日に亘り約百五拾名の  
 清水生活と守る会員その他関係者が押掛けた  
 内外呼應して強力な法廷手当てを展席に及ぼし  
 状況左記の通りであつたから通報あり。

静岡市警察署

記

(一) 第一回

1. 公判日時 昭和二十五年四月二十七日 自午後一時

(1) 第一回 午後一時四十五分より小倉判事係により

被疑者 桃山 春吉 大田正幸 酒井謙弥

大江俊雄 渡辺文右門

(2) 第二回 午後四時三十分より矢部判事係に依り

被疑者 趙成柱 近藤政雄 許摸

福井初男 梶原保 堀勇

2. 勾留理由 前示公判の状況

(1) 第一回 (小倉判事)

定刻午後一時より三十分遅れ停聴者約六十名

が入場續つて被疑者西井外四名も法廷内

に入場 裁判長小倉判事より法廷内に於て

秩序維持のため法廷内に於て秩序を乱す者  
は退場又は及罰すると注意申延

形のごとく氏名訊問及勾留理由が明示し終  
るや、被疑者 渡辺、酒井等最急進分子は  
『吾々は何もしなさいの不当に検束されるは明かに検  
察当局のデブナ上げ事件である』と先ず自己  
が無罪を主張すると共に『本法廷に吾々も不法監  
禁し憲法を蹂躪した岡田三輪両検事が不在  
である事は不当である』と即時出廷を要求し更に

『裁判所は勾留理由明示の美名にかゝれて吾々より  
證據をつかもうとしてゐる』と及駁く徹底的に犯  
罪事実を否認したが裁判長は『うすかきつゝ自  
己の意見も述べ午後四時頃申延したが  
申延宣言と同時に傍聴席に居る朝鮮人黄致

静岡市警察署

煥外より『本法廷内に刑事を入场してゐるが如何  
なる理由か』と質問自由は曹日団大倉辨護士も  
共に判事に不当な行爲であると食ひ下したが裁判長は  
『裁判所法に基いて法廷の秩序維持のため派生を  
要請し』と解答し退廷

の二回(大野)

證據をつかもうとしてゐると及駁く徹底的に犯罪事實を否認したが裁判長はうなづかひつゝ自  
 この意見を見せ述べ午後四時頃閉廷したが  
 閉廷宣言と同様に傍聴席に居る朝鮮人黄致

静岡市警察署

煥外より印法廷内に刑事を入场せしめてゐるが如何なる理由か』と質問自由は曹日団大倉辨護士も  
 共判事に不当な行爲であると食ひ下したが裁判長は  
 『裁判所法に基いて法廷の秩序維持のため派出所  
 要請』と解答し退廷

(ロ) 第二回 (矢部判事)

定刻四時を三十分遅れ全負入廷傍聴者より『私  
 服警官が入场してゐる。こんど退場して下さる二十人  
 位は入廷出来るから入廷させてもらいたい』と被疑者と  
 相呼応して要求辨護士も共に要求したため矢部  
 裁判長は十名の入廷を許可した。  
 之に意を得る傍聴者は更に五名の入场を要求  
 結局十五名の増員を認め閉廷  
 被疑者五名は極左的分子と目され徹底した法廷

斗争を張り「公平であるべき裁判所は検察当局  
 にかたし事件をデックアップし称と、してゐる」  
 「検定事が不出廷であるとは何事か」と第一回同称自  
 己達の無罪を主張すると共に氏名認問には黙否権  
 を行使裁判の延引を策し法廷の休廷、湯茶  
 便所等を要求し、裁判長より休廷を拒否する  
 や「吾々を殺すのか」と本論をはなれた要求を行う  
 等を以て延引戦術に出で意見の用陳にあつては  
 各被疑者共「暗黒裁判である」と強張福井初男  
 は約二時間半を自己の無罪を供述  
 午後八時の分裁判長は未供述者二名に対し  
 「何特向を要する」と問 被疑者は各二時間を  
 要求し「」が裁判長は明日再会を約して閉廷を  
 宣告

静岡市警察署

被疑者は辯護士の応援を得て分離及対  
 明日も全員出席を要求し午後八時の分閉廷した。

3. 其の他内外の状況

(一) 法廷内にある被疑者の供述に対し傍聴者は

目撃...

午後八時十分裁判長は未供述者二名に対し  
 『何特向を要する」と問 被疑者は各二特向を  
 要求し、このうち裁判長は明日再会を約して閉廷を  
 宣告

静岡市警察署

3. 其の他内外の状況  
 被疑者は辨護士の応援を得て分離及対  
 明日も全員出席を要求し午後八時十分閉廷した。

(一) 法廷内には被疑者の供述に対し傍聴者は  
 相呼応して氣勢を挙げ裁判長が制止により  
 傍聴者は比較的平靜であった。

(二) 法廷外には此の日午九時頃より下谷に  
 定められた六十名の傍聴券は早朝から出向した者  
 によって占められた。

- 午後八時三十分頃静岡地裁裁判所の入り口は
- (1) 清水市生活を守る会 約二十名
  - (2) 清水自由労組 約二十名
  - (3) 清水市居住朝鮮人 約二十名
  - (4) 静岡生活擁護会 約四十名

(5) 其の他共産党静岡市委員会

静岡民主生活協同組合 約三十名

労農救援会静岡支部

が赤旗一本静岡生活擁護会旗一本を持って集  
合して居り午後一時三十分より一回公判の疑者が裁  
判所に押送されて到着すると同時に集集合して  
ゐるより記一二十名位り中より三、四十名の者が被疑  
者を取りまわして一斉に「ええやあ」「頑張れ」「俺達  
が」「さあぞい」と激励して若干混雑したか被疑者  
等は止まる事なす所内に入つて居るが平静に復した。  
用延と共に法廷南側の窓に柵に乗つたり窓に手を  
かけて覗いてゐる者に対しては直ちに裁判長の警告  
によつて全負柵外に整理した。  
その後被疑者の出入に際してはインターナショナルの

静岡市警察署

歌をうたつて激励する等の事に出でてゐるが用延中  
は比較的ニ平静であつたが其の間(共)城東の居住  
永倉松次、一尋が主務課長に外部に居る者も  
代表して傍聴券の増発を交渉する事終始り  
して居る。



(二) 二日の状況

1. 公判日時 昭和三十五年四月二十八日 自午九時

(1) 一回公判は午前九時に引續いて矢部判事係りで午九時三十分より

被疑者 趙成桂、近藤政雄、許模、福井初男

堀原保、堀勇

(2) 二回 午九時三十分より小川判事係りで

被疑者 趙甫連、片瀬勝治、村松石近

青木健次郎、田島隆、斎藤修治

田中常次郎、上田実、天野子之一

(3) 三回 午九時三十分より戸塚判事係りによる

被疑者 宮城島忠雄、趙正範、堀池茂平

森山次天、丸山京子

之、公判の状況

(1) 一回 (矢部判事)

定刻午前九時を遅れること三十分、南庭の運びとなり

傍聴者家族を含めて六十八人を入場させ、引續いて被疑

者、堀原保、堀勇、趙成桂、近藤政雄、許模、福井初男、

静岡市警察署

之、公判の状況

静岡市警察署

田中常次郎、上田実、天野子之一  
ハ、三回午は五時三十分より戸塚判事係りによって  
被疑者 宮城島忠雄、趙正範、堀池茂平、  
森山次天、丸山京子

(ハ) 第一回(矢部判事)

定刻午九時を遅れること三十分、南延の運びとなりて  
傍聴者家族を含めて六十人を入場させ、積戻り被疑  
者、堀池外五名が入廷、矢部裁判長が著席すると  
同時、堀池外五名が空席があるより表に居る人達  
をいれて呉れ、

「我々の無実を証明するに多量の人達に聞いて貰うのを  
と騒ぎ立てるのに対し矢部裁判長は本日法廷の秩序  
維持のため傍聴者は増加する事を認めませんと許さ  
し、次いで佐々木辨護人が

。昨日は裁判長の民主的な計らいで十名の傍  
聴者と増加させて戴いたけれど裁判長の懸念を  
する事能は何かにも起りなかつた。本日も昨日同様の  
の計らいを我々辨護人としても希望する次第です。

と述べ此の時傍聴者はまだこんな空席があると互いに詰  
合つて最前列の席はほとんど空席であつたが裁判長は増  
加を認めず公判に入り今日の陳述は一人十五分以内で行う  
事を申し渡し梶原保に対し陳述をうながす事が梶原保は  
。私の今より云ふ事は陳述ではない。その通りに裁判長  
は現に空席があるにもかつわり、傍聴人を入れない  
理由を聞きたい。又僅か十五分位で私の状況を  
述べる事は到底不可の態である。裁判長の一考  
を要しない。

と云つるのに対し矢部裁判長が「後十分」と云つるのど被  
疑者六名が惣立ちとなつて  
。裁判長は我々を不利な立場に追込むるか。  
。検事とない合いの裁判だ  
。裁判長不信任

静岡市警察署

等も各被疑者が口々に騒ぎを起し延内は騒然となり、  
續行不可の能の狀態となつたので佐々木辯護人が各被  
疑者を呼集せしめて相談の場を改めて裁判長に対し

と云つものに對し矢部裁判長が「後十分」と云つるのど被  
疑者六名が惣立ちとなつて

- 。裁判長は我々を不利な立場に追込むるか。
- 。検事となれ合いの裁判だ
- 。裁判長不信任

静岡市警察署

等も各被疑者が口々に騒ぎを起して延内は騒然となり、  
續行不可能の状態となつたが佐々木辯護人が各被  
疑者を呼集しおて相談の後改めて裁判長に對し

刑訴法三十一條に基いて不公平な裁判を有る慮  
れがあると裁判長は已志を申立てた。

(10) 之に對し矢部裁判長は刑訴法二十四條により不申  
立ても却下したのに對し佐々木辯護人は自法二十五條に  
よつて即時抗告し、午前十時十分閉廷退場した。  
亦二回(小川判事)

定刻午前十時より三十分遅れて家族を合め六十七名  
の傍聴人を入場させ亦二回公判予定の被疑者は九名  
であつたが裁判長は二回に分離して行う旨を申し渡した  
のに對し先に入廷した被疑者五名は  
。如何なる理由で分離するのかが

。我々は当日同一に行動して居り分離する事は我々  
にとって不利である。

等を申立て佐々木辨護人も立つて

。当日同特に起つる事柄に對しての今日の公判であ  
り申来るなれば全被疑者同特に公判しても何人の  
不都合もないと思ひますが裁判長等におつては如何なる  
理由で分離するのるか。

本申立てに對し裁判長は之を受入れ九名の本日  
二回に予定された全被疑者が入廷した。

小川裁判長の本籍、住所、氏名の訊問に對し被  
疑者青木健次郎は只一人

。氏名を述べざる必西せはない。  
と黙否検權を行使しようとしたのに對し佐々木辨護人  
が立つて

静岡市警察署

。氏名を述べないと被疑者に不利になると注意した。  
ので青木も氏名を述べた。此の時被疑者席から裁  
判長の氏名を聞かしてせ貰いまいと申立てる者があつた。  
之に對し。

。裁判長は「逮捕状をみなかつて」

と及向した用物に對し辨護人が念の爲に小川判事  
の氏名を被疑者に教示して拘留理由の指示を行

小川裁判長の著作、住所、氏名の訛問に対し被  
 疑者青木健次郎は只一人  
 。氏名を述べる必要はない  
 と黙否裁権を行使しようとしたのに対し佐々木辨護人  
 が立て

静岡市警察署

。氏名を述べないと被疑者に不利になると注意した  
 ので青木も氏名を述べた。此の時被疑者席から裁  
 判長の氏名を聞かしてせよといと申立てる者があつた。  
 之に対し

。裁判長は「逮捕状をみるかつか」

と反問したものに對し辨護人が念の爲に小川判事  
 の氏名を被疑者に教示して拘留理由の南示を行  
 い各被疑者の意見見発表に移つたが一回に比較  
 して低調であり辨護人に今少し當時の状況をくゆし  
 く等と注意されてゐる状況であり、全被疑者の意見  
 発表は午後四時三十分終了全負退廷した。

(ハ) 三回(戸塚判事)

本日も二十分遅れて六十人の傍聴人を入場させ被  
 疑者宮城島忠雄外四人が入廷した。本日は

丸山京子が入って居るので婦人の傍聴人が多く  
 被疑者入廷と共に傍聴人と互に呼び合せて延更りの  
 注意も受けるがその後の進行振りは比較的静か  
 で故意に延更せるやうな云動はみられなかつた。特異  
 な云動は宮城島が

。我々の当日の行動は清水市警署 国警二等の真  
 かりに行われ、当特りの全警察官が監視してゐた。  
 我々は代表を選んで正当な団体交渉を以て  
 ると今でも思つてゐる。之が脅迫とか逮捕監  
 禁とかの罪を構成する。のであるならば若し  
 敬言察が犯罪予附と云う事をもつて我々に警告  
 告、しと見ればよいではないか。それにもせよ五分周の  
 予猶ざりである場合、どんな事をも上キに行  
 くはずがない。

静岡市警察署

明らかである目的も本事件はデツキ上げられ  
 るのである。

右の状況でもってオミ田終了午後八時十分全員退  
 場した。その時三回公判を通じて傍聴人(家族を除く)  
 は通特交代して傍聴してゐた。

3. 法廷外の状況

禁示の四罪を構成する。うぐあるならば若し  
敬言察が犯罪予防と云う事をもつて我々に敬言  
告、しと申すのばよいではないか。そのもせりに五分間の  
予猶びりである場合どんな事をもも上キに行  
くは予りがない。

静岡市警察署

明らかにある目的のもとに本事件はデラウキ上げられ  
るのである。

右の状況でもってオミ田終了午後八時十分全負退  
場した。よりなる三回りの公判を通過して傍聴人(家族を除く)  
は適時交代して傍聴してゐた。

3. 法廷外の状況

(1) 法廷外にあつては昨日同杯傍聴券は早朝に無く成り  
傍聴者は昨日と概ね同杯に参集し急進分子は  
傍聴券の追加発行を撤回に要求しがいずれも拒  
否された。

(2) 午の三時頃電産労組静岡分会委員長  
村松良平(因)は裁判所前に於て参集者を集めて  
「本日電産文部大会に於て清水事件に対する  
資金カンパを行ない清水生活を守る会の勝利を



激励する事になった

電産支部名による激放文と朗讀資金カンパ  
約一千三百円を送り激放した。

(3) 本日静岡歯科区師会館にて朝鮮人青年  
ケッキ大会が開催され、午後四時頃には朝鮮  
人の傍聴参集者が多かつた。

(4) 傍聴参集者の急進的分子の警察官に対  
する挑発的行爲が目立って多かつた。

静岡市警察署

第三十回メーデー開催状況について

主催 静岡地区労働組合会議

戦後五を迎える第三十回メーデーは左右の労働陣営の  
実情を如実に反映し実行委員会の一特分列夜をつま  
えり  
デー打合せより左右の対立激化の一特分列夜をつま  
えり  
られ  
スローガン  
大  
制  
限  
と  
石  
派  
の  
譲  
歩  
に  
依  
つ  
て  
流  
一  
メ  
ー  
デ  
ー  
を  
実  
行  
す  
る  
事  
に  
成  
つ  
た  
更  
に  
国  
際  
情  
勢  
の  
緊  
迫  
さ  
ら  
な  
る  
中  
で  
日  
本  
の  
軍  
事  
基  
地  
化  
に  
及  
び  
対  
する  
左  
派  
の  
如  
何  
に  
メ  
ー  
デ  
ー  
を  
斗  
う  
か  
に  
就  
い  
て  
發  
言  
備  
上  
嚴  
に  
注  
意  
を  
し  
て  
各  
等  
發  
言  
察  
事  
故  
を  
解  
散  
し  
た  
其  
の  
状  
況  
は  
左  
記  
の  
通  
り  
で  
あ  
る  
記

一 大会の状況

五月一日午前十時三十分於静岡園コートで静岡地

静岡市警察署

区労働組合会議傘下二十団体約二六三〇名(司会  
者発表)に依り開席催 午後の時十五分解散した  
参加団体及人員別表の通り

メーデースローガン

(1) 鉄企業業の社会化促進

は左記の通りである。

記

一大会の状況

五月一日午の九時三十分於静岡園コートで静岡地

静岡市警察署

区労仲組仲会議傘下二十団体約二六三〇名(司会者発表)に依り開席催。午の十時十五分解散(ミ)参加団体及人員別表の通り。

ニ、ミーデースローガン

- (イ) 私鉄企業業の社会化促進
- (ロ) 通運事業を社会化せよ
- (ハ) 生活と破壊する悪税及対
- (ニ) 県民を苦しめる小林県政絶対及対
- (ホ) 小林知事即時退陣木漆竹業者を救へ
- (ヘ) 公務員法公務法の撤廃地方公務員法設定及対
- (ト) 電気事業の社会化促進
- (チ) 分断及対
- (リ) 貸金通欠配拂り特別融資を增强せよ
- (ハ) 産業別に沿う労働戦線の一
- (ニ) 首切り賃下げ労働強化工場鎖及対

(ル) 戦争及対自由と平和の爲の全面講和の促進  
 (ホ) 自由党参議員候補を叩き落せ  
 (ニ) 吉田内閣及動内閣即時打倒

三、大会次第

一、大会開会宣言 司会者 村松良平(共)  
 吉田暴政の中であつて吾々地区内はメーデー統一の  
 爲に斗ひ民主団体等の参加と協力を得て統一こそ  
 此の意義ある統一とメーデーの爲の統一でなく今及  
 の分は戦線のカ強い推進力とこそい

二、議長団選出 司会者 村松良平(共)

議長団選出に付て「司会者一任」により司会者の指名

第三十一回メーデー議長 清水俊(私鉄(社))

副議長 工屋 宏(国鉄)

木原 五郎(全日通)

静岡市警察署

書記 山口 三郎(電産(民))

実行委員 八団体より一名宛氏名不詳

三、議長団挨拶

(ハ) 要旨 議長 清水 俊

第三十四回メーデーの議長を指名する光景に於て

議長団選出に付て「司会者一任」により司会者の指名

第二十一回メーデー議長 清水 俊 (私鉄)

副議長 工屋 宏 (国鉄)

木原 五郎 (全日通)

静岡市警察署

書記 山口 三郎 (電産)

実行委員 八田 作より一名宛 氏名不詳

3 議長団挨拶

(1) 要旨

議長 清水 俊

ホニ十一回メーデーの議長を指名され光栄に存じ  
まの 本年まのメーデーは吾田内暴政の及ぶ  
幼者政策に依り分列衣しと実情に於て統一した  
とは云へ誠ニ涙ぐましいメーデーがありまの

本メーデーを機に静岡地区の労働者も統一以て  
労働戦線の統一と強化を図らるべし

(2) 要旨

副議長 工屋 宏

ホニ十一回メーデーに副議長と一任され比白林の市  
声援を感謝致し有り 此の意義あるメーデー  
と戦線統一の推進力として結集せん事を此言ふ

(ハ) 要旨 副議長 不原 五郎

此の「史的」意義ある二十一回メーデーの副議長に若輩不原が指名され、感懐に感謝しメーデー大会がスムーズに進まん事を祈りませう。

4. 来賓祝辞

(イ) 要旨 静岡生活擁護会副会長 柴崎 瀧治

吉田及動内閣の暴政の下、重税に苦しめられつゝも中小企業を守る静岡市民は次々と倒されて行く清水に於ては吾々の同志が税金斗争の犠牲と成つて二十五名が不当検束を蒙る吾々はあくまで重税に反対し斗争する事を誓言す本メーデーを祝福しメッセージを送る。

(ロ) 要旨 借地借家人組合代表 池ヶ谷 信一 (社) 社会党外野党各派は本日内閣不信任案を

静岡市警察署

国会に提出する

吉田及動政策に苦しむ中小企業者は次々と倒れ失業者は港にあふれ国軍基地化してある。吾党はこゝろを及動政を倒し日本の完全

独立の爲に奮闘することを旨とし、

性と成つて二十五名が不当検束を承て吾々はあくまで  
重税に及対し斗争する事を誓言す本メーデーを  
祝福しメッセージを送る

(ロ) 要旨 借地借家人組合代表 池ヶ谷信一(社)  
社会党外野党各派は本日内閣不信任案を

静岡市警察署

国会に提出する

吉田及動政策に苦しむ中小企業業者は次々と倒れ  
失業者は港にあふれ国を軍事基地化してある  
吾党はこり称な及動政策を打倒し日本の完全  
独立の爲に奮闘することを皆称と共に誓言す本  
メーデーの祝辞と致しませう

(ハ) 要旨 共産党

大橋 宏一郎

和三十一年メーデーが統一された事を共産党は  
バから而祝申上げませう

吉田及動内閣は日本を軍事基地化し日本を  
戦争へ〜と引きまわつてゐます。共産党は  
此の称な賣国吉田政策にあくまで及対し  
日本を参戦の危機から救い自由と平和と  
独立を守る爲に全力を尽くしと誓ひます

統一成った意義あるメーデーにより一層団結の原  
動力として斗はん事と折言の祝辞と致すまかり。

(二) 要旨 朝鮮人解放救済会 成一 変

日本の国土は蜘蛛の巣の林に軍事基地化されて  
る事実 帝国主義者の午先である李承晩  
政府は及動吉田内閣と結託して朝鮮を解散  
し朝鮮解放救済会の解散と財産没収  
の暴陰を企図し朝鮮人を強制追放しよう  
としてゐる吾々は此の林を及人民政府策を打倒  
する事と折言のメッセージとする。

(ホ) 要旨 社会党 下川儀太郎

暴圧と及民族政策に  
中小企業者は次々と倒れ行く  
吉田及動内閣を打倒するまで

静岡市警察署

赤旗を振れ

とメーデーに送る詩を朗讀しよ。

(5) 大会スローガン説明

(一) スローガン(ル)説明 事務局 山口三郎(電産)

二つの大きな思想の対立を繞って国際情勢は

増々緊迫してゐる戦争と及対し自由と平和の



(本要旨)

社会党

下川儀太郎

暴圧と及民族政策に

中小企業者は次々と倒れ行く

吉田及動内閣を打倒するまで

静岡市警察署

赤旗を振れ

とメーデーに送る詩を朗讀しよ。

(5) 大会スローガン説明

(一) スローガン(山)説明

事務局 山口三郎(電産)

二つの大きな因想の対立を脱して国際情勢は  
増々緊迫してゐる戦争に及対し自由と平和の  
為の全面講和を促進する事を全労竹者擧  
げて要求すると承案を朗讀

(二) スローガン(山)説明 電産 牧野 勇(兵)

電気事業は今九に分断 森林としてゐる電気  
事業を独専資力午かう救ひ社会化の促進  
を要求 私鉄運賃は国鉄とくらべ当然安く  
くはならぬに段々高く成つて行く之は明かに独専  
者達の独専に依るものがある

私鉄企業も通運事業も又電産も独専資  
本家達の独専より救ひ社会化を促進しなけ  
ればならぬ。

(三) スローガン(四)(五) 説明 巴川製紙 松本 盛藏

貸金遅欠配は一千万円を数へてゐると静労監督  
署より発表された此の様な貸政に依り労働者  
を苦しめる政府に及対し救援特別融資の  
増強を要求すると共に首切り貸金引下労働強  
化に及対し吉田暴政の犠牲に依る工場閉鎖に  
あくまで及対し産業別に沿う労働戦線の一  
をあげし進める。

(四) スローガン(六)(七)(八) 説明 国鉄 鈴木貞一

県政に對しては

県民をあげむき自由党にくらがひし県民を苦しめ

静岡市警察署

る小杉知事、即時退陣を要求する。  
国政に對し

生活を破壊し重税を以て国民を苦しめる吉田  
及勤政策に及対し吾々労働者の力強い団結  
に依り即時打倒を誓ひ来るべき参院選には

自由党候補を叩き倒す

（四）スローガン（ハ）（ホ）（ヘ）（ヘ）説明 国鉄 鈴木貞一  
県政に對しては  
県民をあげむき自由党にくらびて県民を苦しめ

静岡市警察署

る小林知事、即時退陣を要求する。

国政に對し

生活を破壊し重税を以て国民を苦しめる吉田

及動政策に及對し吾々労働者の力強い団結

に依り即時打倒を誓ひ来るべき参院選には

自由党候補を叩き落さなければならぬ。

5. 祝電発表 議長 清水 俊

（ハ）暴政の嵐の中は於て南の爪を一つ固統一メーデー

を祝し共に斗争事を誓ひ

代議士 砂 岡 一 良

6. 特別スローガン

（ハ）木漆竹業者を救へ、鈴木善一（代理、鈴木杉山）

静岡の約四割を占める木漆竹業者は、今、吉田

暴政の嵐の重税と資金難に次々と倒れ

労働者は安倍川工事に其の生きる道を用いて  
ある清水は税金に苦しむ者が不当に検束され  
てゐる。静岡の産業と生活を守るために斗はなけれ  
ばならぬ。

7. 決議文発表 国鉄 青木 新次

以上説明をスローガンに對する決議文を發表  
象衆参議院及県知事静岡市長に手交  
する事を提案 満場一致の決、特に知事  
市長に對しては静岡自由労組の提案に依る。

自由労組の完全就労

メーデー参加を有給にせぬ。

軍の要求を合せ実行委員会に於て手交する事  
ロイヤル

8. 緊急動議 静生権 米澤 芳藏 (共)

静岡市警察署

清水に於ては税金斗争に参加し、零細市民を吉田  
及動内閣の番犬共に依りて暴圧検束され吾々の  
会長である梶原保外二名も同様に不当に検束さ  
れてゐる

等の要求を合せ実行委員会に於て手交する事  
ロハム

緊急動議

静生擁

米澤 芳藏 (共)

静岡市警察署

清水に於ては税金斗争に参加し、零細市民を吉田  
及動内閣の番犬共に依り暴圧検束する吾々の  
会長である梶原保外二名も同様に不当に検束さ  
れてゐる

之の様な不当な検束が行はれ去る二十七、八日の両日  
拘留理由開示の公判がなされても岡田、三輪両  
検事は出席しない之の様な暴舉に対し吾々  
にはあくまで斗争はなされるべきに皆様の声援を  
お願い致します

9. 大会宣言発表

氏名不詳

労働戦線が統一に依り吉田及動内閣の即時  
退陣を期すと強力な大会宣言を発表

10. デモストレーションの順路注意説明

司会者

村松 良平

デモ行進の順路を説明した巨泉公安委員会(司  
会者の誤り静岡市公安委員会よりデモに対する  
注意があると言ひり證を朗讀午前十時四十二分  
第一班 惣指揮官

木原五郎 指揮の下に 電産  
オニ班 惣指揮官

工屋 宏 指揮の下に国鉄を先頭  
予定りデモ行進を行つた

四 デモストレーションの状況

オニ班に参加した共産党を含む静岡生擁護会  
民主協同組合 朝鮮人解放救済会  
静岡自由労働組合等を行進中静岡刑務所  
附近に於て 共産党 大橋 宏一郎が  
停止を命じ清水税金斗争の犠牲者が刑務

静岡市警察署

五 所は收容するると説明し及萬歳を三唱した  
大会再会

(1) 副議長 木原五郎より全員帰る事を確認

大会を再会すると発表予定を進めり

(2) 決議文を交及要求結果報告

オニ班に参加し、共産党を含む静岡国生擁護会、民主協同組合、朝鮮人解放救護会、静岡自由労働組合等、行進中、静岡刑務所附近に於て、共産党大橋宏一郎が、停止を命じ、清水税金斗争の様性者が刑務

静岡市警察署

所に收容されてゐると説明し、後、萬歳を三唱した。

五、大会再会

(1) 副議長 木原五郎より、全員帰郷の事を確認

大会を再会すると発表予定を進めた。

(2) 決議文の交及要求結果報告

議長 清水 俊

本大会の決議文と自由労組及県木産の要求に  
ついで、私達実行委員は皆杯の行進中、県庁  
及市役所を訪問した。知事も市長も不在で  
要求が出来なかつた。が日とあらためて要求皆杯の  
市期待の添います。

(3) 労農救護会 元国鉄 井上 某(笑)

清水事件に於ける資金カンパに於て一千百二十七円  
五十、幾かあつた。尚皆杯の協力をお願いすると挨拶

(4) 萬歳三唱

議長清水俊の唱道守に依りオニキ一回メーデー  
萬歳を三唱午後〇時一分労働歌を合唱  
午後〇時一五分散会した。

六 其の他 参考事項

(1) 大会場では労働農救 援会が清水事件の資  
金カンパをなした。

(2) 本大会は政党内参加を認めないため

共産党は 生活擁護会に参加(約百五十名)

社会党は 借地借家人組合及惣同盟参加

(3) 本大会終了後静岡自由労働組、朝鮮人は共産  
党の応援のえに市役所に於て

完全就労メーデーを有給に生ずり

要求する事を午後八時頃迄一行の要求

を身徴した。

静岡市警察署

七 本メーデーに於けるプラカード及伝單

(1) 伝單

(1) 平和と独立のオニキ一回メーデー(三部)大金

屋労働組静岡支部

(2) オニキ一回メーデーに當り金労働者に訴う



(1) 本組会終了後静岡自由労組朝鮮人は共産  
党の応援のえり市役所に於て

完全就労、メーデーを有給に生ずり  
要求、午後八時頃迄行い要求

静岡市警察署

を母徴しを

七本メーデーに於けるプラカード及伝單

(1) 伝單

(1) 平和と独立のメーデー(三部)大金

屈労組静岡支部

(2) メーデーに当り全労仲者に訴う

日共静岡市委員会

(3) 朝鮮人強制退放のメーデーである。中部

地を朝鮮人団体共同斗争委員会

(4) ミグナル 国鉄静岡党員グループ

(5) 清水税金斗争実相報告書 暴圧及対

共同斗争委員会準備会

(6) 其の他

(7) 主たるプラカード

(1) 吉田内閣打倒  
 (2) 本日の葬儀を感謝致し、吉田一家  
 (3) 自由平和独立  
 (4) 食べる為の貸金を貸せ  
 (5) 吉田暴政及対  
 (6) 首切り貸下げ及対  
 (7) 中小企業者を救へ  
 (8) 参加団体

所 屈

実行委 員

- 電産労組静岡分会
- 巴川製衣紙労組
- 静岡鉄道従業員組合
- 国鉄労組静岡支部

男	1	2	1	2	2	2	1
女	0	3	3	3	3	3	0
計	1	5	4	5	5	5	1

静岡市警察署

- 全通信労組
- 全日通労組静岡支部
- 理研電化労組
- 全金屈太陽アミ分会
- 共産党擁護会静岡同組合
- 静岡自由労組

男	3	3	3	3	3	3	3
女	0	0	0	0	0	0	0
計	3	3	3	3	3	3	3

突行委負	電産労組静岡分会	巴川製衣紙労働組合	静岡鉄道従業員組合	国鉄労組静岡支部	全通信労働組合	全日通労働組合静岡支部	理研電化労働組合	全金屈太陽アミ分会	共産党擁護会静岡協同組合	静岡自由労働組合	朝鮮人解放救援会	全農静岡県支部	県木産労働組合	日冷従業員組合静岡支部	全損害保険労働組合	日映演静岡支部	全金屈全自動車分会	全印労静岡分会	
一〇	二一七	一六四	二五七	二八八	三八八	三三八	一三四	一三四	一三四	一〇〇	二六六	一八八	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
			三五	六三	三三	三三	一〇	三三			一一	一一			二〇				
一〇	二五	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二

静岡市警察署

惣	借地借家人組合(任意)
同	
盟	

1	1	1
7	0	0
0		

3	3
3	0

1	1
0	0
4	0
0	0

静岡市警察署

# 朝鮮人強制追放の第一歩である

## 朝鮮解放救済會の解散と財産沒收の暴陰について

### 正義と人道を愛する全日本人人民に訴う

四月十九日、衆議院外務委員会で殖田法務總裁は次のような重大な發言をした。

「私のきいたところでは朝鮮の現政府が在日朝鮮人の強制送還を希望しているとの話である」と。  
これは既に華僑民報が報じているように二月に朝鮮の李承晩大統領が東京に来て吉田首相と左のような秘密協定を結んだ結果である。

一、日本は南朝鮮を援助し軍需品を賣る。このため義勇軍少将(南朝鮮兵器本部長)を日本へ送る。  
一、在日朝鮮人六十万は大部分が北朝鮮の人民共和國を支持し華僑と提携して吉田政府をかきみだそうとしてゐるから南朝鮮を強制送還する。そして南朝鮮の軍事的な人的資源にあてる。  
この秘密協定に基いて吉田首相は四月から關釜連絡船を六倍にし、北九州の強制送還收容所を増設し、既大阪、岡山に於いて九人を手錠をはめ極秘に送還した事と台東事件等に現れている。

一、朝鮮人解放救済會を近く無理矢理に政治団体現正令にひつけて解散命令を出し、それに反対する者を強制送還する。(これは某警官が既に言明している)  
一、舊朝鮮の財産など勝手に認定して在日朝鮮人が現在使用しつゝある私有、共有財産を沒收し、これに反対するものを強制送還する。  
一、そのために法務府特審局第四課を中心に各縣の調査課と警察を動かしスパイ活動をさせている。中でも元特高の朝鮮人保甲理事を日韓同志會の名で集め兆發活動をやらせている。  
一、外國人登録令を悪用し登録者にして不意にも登録證を携帶せざるものをも違反の口實を作り追放を合理化する。

一、三鷹事件、松川事件のような官製事件をデッチ上げその責任を在日朝鮮人に押しつけ、それを口實に強制送還をしようとしてゐる。暴力闘争りと稱するのはその豫備工作だ。  
國際獨占資本の手先、李承晩と吉田のやり口はまさしくヒットラーのユダヤ人追放の真似だ。

△首切り、植民地的質銀、軍事的勞働強化に苦しむ勞働者諸君！  
△投げ賣り輸入食糧の重壓と強權供出、重税に泣く農民諸君！  
△殺人的惡税と飢饉貿易に倒れて行く中小業者諸君！  
△仕事もなく飢えてゆく失業者諸君！  
△植民地的愚民教育とパンパン文化に憤激する教授と學生諸君！  
△外國資本に押しつぶされる民族資本家諸君！

われわれ朝鮮人も諸君とともに苦しみ、ないてゐる。敵も同じだ。國際獨占資本の手先、吉田首相と李承晩大統領がそれだ。彼等は日本列島と南朝鮮とを軍事基地にする事に狂奔してゐる。戰爭準備に設立つたのだけが榮え、それ以外はすべて收奪されたおされて行く。平和産業は日一日と衰えて行くばかりだ。人民から收奪した悪税はただ軍事基地建設と軍需品製造と人民弾壓とに向けられてゐる。  
この植民地化は日本以上に南朝鮮でひどい。六十三万ドルの巨費でつくられた金浦飛行場をはじめ一月二十六日に結ばれた米韓軍事協定(一千万ドル余の武器援助)によつて南朝鮮は戰場化してゐる。然しながら南朝鮮の愛國的人民大衆は頑強に反抗をつやけてゐる。本年二月からの強制徴兵も青年の反抗と逃亡のため失敗に歸しつゝあり、そのため總理大臣と國會副議長が詰め腹を切らされてゐる始末だ。在日六十万朝鮮人の南朝鮮への強制送還は全く南朝鮮の軍事基地化を目的としてゐる。これは日本列島の軍事基地化にながつてゐる。

△親愛なる日本人諸君！  
國際獨占資本はもつぱら反ソ反共の惡宣傳で人民の生活苦の怒りをソラし、日鮮兩民族の離間策によつて日本人を再び戦争に持ち立てようとしてゐる。日本人に神がかりの優越感と排外主義を呼び起そうと獨占資本はヤツキになつてゐる。その手先が韓國居留民團幹部であり、社會党鈴木茂三郎等であり、勞働組合民團幹部だ。彼等こそは味方づらをした最惡の賣國奴であり、舶來淫賣婦だ。

△親愛なる日本人諸君！  
苦るしきも同じだ。敵も同じだ。日鮮兩民族は生活擁護と世界平和と民族の獨立のために共通の敵と斗わねばならぬ。在日朝鮮人強制送還の暴陰に對し、日本の人民諸君がわれわれと共に反對斗争に立ち上られんことを強く要望する。

### スローガン

- 一、朝鮮人解放救済會解散命令の陰謀反對！
- 一、在日朝鮮人の私有、共有財産の沒收反對！
- 一、在日朝鮮人の南朝鮮強制送還反對！
- 一、南朝鮮と日本の軍事基地化、植民地化反對！
- 一、植民地的低賃金と軍事的勞働強化と首切り反對！
- 一、投げ賣り輸入食糧と強權供出と重税反對！
- 一、中國その他のアジア諸國との平和的な自主的な貿易の促進！ 人民を虐殺する日韓軍事貿易反對！

### 中部地方朝鮮人團體共同斗争委員會

一九五〇年四月

- 一、ポツダム宣言による全面講和の促進！
- 一、戦争反對！世界平和！民族の獨立！
- 一、帝國主義の手先、李承晩政府、吉田内閣の打倒！
- 一、民族獨立の裏切者、韓國居留民團幹部、社會党鈴木茂三郎等、勞働組合民團幹部のパンパン行爲のテツテイ的排撃！
- 一、日鮮兩民族のテイケイ万才！

# 才21回メーデーに当り全労働者に訴ふ

租国を外国の軍事基地にさせるな

すへての勤労者団結せよ！！

清水銃金斗争弾圧の犠牲者の句当理由開示法  
庭には五百名の中小業者農民が押しよせた。  
核東者たちは裁判官の面前で二時間に亘る大演  
説をやった。日本の情勢と税金が軍事基地化  
戦争準備に使はれてゐる事実を切々と説いた。  
裁判官も警官もしんけんに入つた。さうに  
同志は今次メーデーと参戦の重要さを訴えた。  
井ノ人の社会党池谷氏も即時釈放を叫んだ。  
切々たる訴えと行動は力を動搖させた。  
諸君！吾々はここに小さくはあるか共同の敵  
に統一して斗争強さを見た。

敵はハッキリしてゐる外口独占資本とそめ年先吉田  
自由党内閣である。京都では「及共は戦争前夜の  
声がある」と叫んだ民主民族戦線統一候補が勝  
つた。諸君！本日メーデーを土台に労働者  
は統一し市民学生をも含めた共同戦線を  
つくろう。われわれは外口のための肉弾になる  
のはいやだ。自由と平和と民族解放のために団  
結して斗争しよう。才二回メーデー万才！！

- 本講知店における全占領軍の即時撤退
- 本低賃金労働強化低米価反対
- 本生活さつがす要統反対

日本共産党静岡市委員会